

二〇一三年五月二日（南禅寺参加者一五名）

インクライン鉄路まつすぐ新樹光	わかば
古都薄暑インクラインをたもとほり	"
苔庭に影うち重ね若楓	"
日に透けて若葉耀よふ水路閣	"
蟻登る国宝門の太柱	よし子
遥拝す京の五山は夏霞	"
薫風や大三門の大薨	"
水路閣アーチ門より青葉風	"
大三門額縁として若葉山	満天
画布ひろぐインクラインの緑陰に	"
汗ふきて天井の龍仰ぎけり	"
東山連峰指呼に欄涼し	"
水路閣逸る流れや新樹光	ぼんこ
草茂るインクラインの鉄路錆び	"
高欄に滴る嶺々を遥拝す	"
遅刻して気が急くばかり道薄暑	有香
下閤を水馳せてゆく水路閣	"
遠望の五山うっすら夏霞	"

三門へ松亭亭として涼し	菜々
水路閣アーチ抜けくる若葉風	"
赤レンガ若葉に映ゆる水路閣	"
句ともがら日傘を連れ水路閣	つくし
中腹の薨は古刹山若葉	"
森林浴涼し疏水の楽もまた	宏虎
水路閣水の奏でる楽涼し	百合
三門の回廊めぐる風涼し	こすもす
下閤に水の香立つや水路閣	よう子
薫風を総身に纏ひ入山す	きづな
暦日をきざむ高欄山若葉	はく子

二〇一三年五月二日（南禅寺参加者一五名）

吟行句会みの選